

令和3年度

事業報告書

自 令和3年 4月1日

至 令和4年 3月31日

神奈川県厚木市旭町 1-25-1 ミハラス 3階

公益財団法人健康予防医学財団

1. 概況

1-1 受診者数の推移

公益財団法人健康予防医学財団（以下当財団）は、平成 23 年 4 月に移行認定を受けた。当期は第 11 期に当たる。

令和 3 年度（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日）の年間受診者数は、前事業年度比 108.4%の 37,324 人だった。内訳をみると、人間ドックが前年比 116.1%の 7,252 人と受診者数が大きく増加した。また、生活習慣病健診、定期健診・その他も前年度に比べ増加した。

	令和 2 年度	令和 3 年度	前年比
受診者数	34,430	37,324	108.4%
人間ドック	6,246	7,252	116.1%
生活習慣病	12,202	13,166	107.9%
定期健診・その他	14,585	15,540	106.5%
婦人科検診	927	653	70.4%
市町村検診	470	713	151.7%

（単位：人）

前年度と同じく、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の影響や施設移転のための約 1 か月の休業期間があったが、移転により受入体制を強化したこともあり、受診者数は増加し、増加率はコロナ前に近い数値となった（コロナ前は約 10%）。新型コロナウイルス感染防止策に万全を期し、安全かつ正確に検査を実施したが、前年度より受診者数が増加、またコロナ前の増加率に近づいたことは、県民に対して受診機会を提供することができたと考える。

1-2 売上規模と経費

令和 3 年度の売上は、前年度比 112.8%の約 8 億 3,410 万円となった。総合健診（人間ドック）の売上は前年度比約 117.4%の約 3 億 1,579 万円で、一般健診の売上は前年度比約 108.7%の約 4 億 804 万円だった。

経費については売上増加率に対して比例した増加ではあるが、新型コロナウイルス感染防止策に掛かる費用もあり、新型コロナウイルス終息はまだ先であることを踏まえ、次年度も引き続き、適正化を図っていく。

2. 健診業務関連部分

2-1 精度管理の状況

日本総合健診医学会の指導のもと、本年度も胸部 X 線や心電図、生化学検査、他の関連検査の精度が正常かをチェックした。実施日と結果は以下の通り。

実施機関	実施月	実施内容	結果
日本総合健診医学会	令和3年4月	生化学1精度調査	精度管理良好
		生化学2精度調査	精度管理良好
		HbA1C精度調査	精度管理良好
		血球計算精度調査	精度管理良好
		尿一般精度調査	精度管理良好
		便潜血精度調査	精度管理良好
	令和3年7月	生化学1精度調査	精度管理良好
		生化学2精度調査	精度管理良好
		血球計算精度調査	精度管理良好
	令和3年9月	生化学1精度調査	精度管理良好
		生化学2精度調査	精度管理良好
		HbA1C精度調査	精度管理良好
		血球計算精度調査	精度管理良好
		尿一般精度調査	精度管理良好
		便潜血精度調査	精度管理良好

2-2 職員の状況

令和3年3月31日現在の職員構成は以下の通り。

職種		人数	摘要
医師：内科	常勤	1	院長
：内視鏡専門医	常勤	1	
：内科	常勤	1	毎週木曜日
：内科	非常勤	1	毎週土曜日
：内科	非常勤	1	第1週第3週第5週土曜日勤務
：内科	非常勤	1	第2週第4週第5週土曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週月曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週火曜日
：産婦人科	非常勤	1	毎週水曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週木曜日勤務
：産婦人科	非常勤	1	毎週金曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週月曜日水曜日金曜日勤務
：内視鏡専門医	非常勤	1	毎週火曜日木曜日勤務

: 内視鏡専門医	非常勤	1	毎週月曜日水曜日金曜日勤務
: 内視鏡専門医	非常勤	1	毎週土曜日勤務
: 内視鏡専門医	非常勤	1	第2週第4週土曜日勤務
: 放射線	非常勤	1	毎週木曜日勤務
看護師	常勤	10	
看護師	非常勤	11	指定日に勤務
診療放射線技師	常勤	4	
診療放射線技師	非常勤	3	指定日に勤務
臨床検査技師	常勤	8	
臨床検査技師	非常勤	7	指定日に勤務
管理栄養士	常勤	1	
看護助手	常勤	3	
看護助手	非常勤	5	指定日に勤務
事務職員	常勤	25	
事務職員	非常勤	2	指定日に勤務
事務局員	常勤	2	

役員（理事、監事）の状況

役職	氏名	現職
理事長	横須賀 浩二	ヘルスケアクリニック厚木 理事長
副理事長	斐 英洙	ヘルスケアクリニック厚木 統括院長
専務理事	武本 吉功	株式会社ベルコーポレーション 代表取締役
常務理事	横田 春樹	ヘルスケアクリニック厚木 医療部長
理事	成澤 勉	ヘルスケアクリニック厚木 事務長
理事	神戸 義人	ヘルスケアクリニック厚木 院長
理事	川原 輝久	
監事	西ノ内 彰	税理士法人 TM 総合事務所

2-3 総合判定の割合

令和3年度の健診結果の総合判定の割合は、A判定が2.51%、B判定が3.25%、C判定が28.01%となった。D～F判定が全体の66.24%と過半数を占めることから、受診者の健康状況の改善をいかにして進めていくのかが重要となっている。

C 判定及び D 判定が全体の 77.96%となることから、未病の段階にいる受診者がかなり多いことが伺えた。今後は神奈川県政策局 いのち・未来戦略本部室未病産業グループとの連携をさらに強化し、未病の研究を実施していくと共に、これらの層を中心に保健指導の実施やイベントの企画や情報の発信を行い、さらなる市民の健康増進に注力していく。

令和3年度総合判定	人数	割合
A	933	2.51%
B	1,212	3.25%
C	10,429	28.01%
D	18,600	49.95%
E	88	0.24%
F	5,977	16.05%

3. 健康知識普及業務関連部分

3-1 特定保健指導

令和3年度の特定保健指導における初回面談実施件数は、積極的支援142件（前年度147件）、動機付け支援191件（前年度132件）で合計433件（前年度279件）。昨年度対比で155.1%と増加となった。前年度から特定保健指導を2名体制としているが、当日の面談実施を受診者に促すだけでなく、電話での面談対応も行うことで、実施回数は大きく増加した。

特定保健指導に関しては全国健康保険協会の調査では医療費節減の効果があり、国立循環器病研究センターの研究ではメタボリックシンドロームのリスク軽減が科学的に証明されている。特定保健指導に参加することでの効果を踏まえ、受診勧奨対象者も含めて情報提供を強化し、支援実施者を引き続き、増加できるように改善していく。

特定保健指導内訳		令和2年度	令和3年度
積極的支援	個別契約	161件	320件
	その他契約	81件	40件
動機付	個別契約	131件	218件
	その他契約	60件	60件

【参考 保健指導を受けた人の感想】

■積極的支援

① 50代 男性

(結果) 体重-8.9kg 腹囲-7.5cm

(コメント) 2.0kg/月を目標値にしている達成出来た。体が軽くなりました。

② 40代 男性

(結果) 体重-4.7kg 腹囲-7.0cm

(コメント) 目標を無理なく設定したことと、長期的に目標を意識できたため目標を達成できました。体重や体脂肪が減ることでやる気が出ました。

③ 60代 男性

(結果) 体重-3.5kg 腹囲-1.7cm

(コメント) 食生活への注意が健康へ直結することを改めて認識しました。今後も継続して現在の食生活を続けるようにしたい。

④ 60代 男性

(結果) 体重 - 7.6 kg 腹囲-4.0 cm

(コメント) お酒を控えたことで逆流性食道炎が治った。工事現場で8階までエレベーターを使用せず階段を利用した。今後の健康づくりのために、食後の運動と、間食を控えることを続けていこうと思う。

■動機付け支援

① 50代男性

(結果) 体重-3.7kg 腹囲-4.5cm

(コメント) 下半身強化と心肺機能の強化ができた。30才くらいの動きになった。

② 40代男性

(結果) 体重-2.6kg 腹囲-4.0cm

(コメント) 食事改善をして体が軽くなってきた気がする。今後も、ジムで30分ウォーキング(速歩き)と、ドレッシングをオリーブオイル1杯とレモン汁かお酢に変えることと、ゆっくりよく咀嚼する(1口30回)を継続します。

③ 50代女性

(結果) 体重 - 2.0 kg 腹囲-2.0 cm

(コメント) なんとなく体が軽くなったような気がする。今後の健康づくりのために、食事内容と食事量を意識する生活、間食を減らすことを続けていこうと思います。

3-2 市民向け無料勉強会・セミナー

1. JMS（ジャパンマンモグラフィー・サンデー）

毎年10月に開催される、働く女性を対象とした乳がん検診の受診勧奨イベントであるジャパン・マンモグラフィー・サンデーは新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、令和3年度は開催を見合わせた。次年度については感染状況に注視し、開催再開を検討していく。

3-3 啓発活動

1. 疾患別リーフレット事業

健康診断で得られた情報を分析し、発症率の高い疾患5種を抽出。抽出した疾患の啓発リーフレットを作成。自治体、企業、医療機関に配布。

2. 検査ガイドブック事業

一般的に健診施設で行われている検査項目に関するガイドブックを作成。検査の目的、基準値、異常値が出た際に考えうる症状や病名、今後のアドバイスなどを分かりやすく記載。検査の内容や意味を知っていただくことで、健康意識が変わり病気の早期発見、早期治療につなげていくことが目的。自治体、企業、医療機関に配布。

3. AIによる健診結果解析システムの本格的運用

AIによる診断結果解析システムは前年度から本格的に運用を開始した。AIの診断結果は健診結果と合わせて、より細やかな改善指導や支援に活用でき、受診者の変容に大きく寄与している。

以上